

- 1 主題名 「ないた赤おに」(内容項目 2-(3) 信頼・友情)
(出典 「明るい心」 愛知県教育振興会)

2 主題設定の理由

(1) ねらいとする価値について

相手を理解し信頼することは、人間関係において、最も大切なことである。その理解や信頼に支えられて友情が育てられる。友情を育てるためには、相手の立場をよく考え、思いやり、互いに向上していくことが大切になってくる。ただ単に仲が良いということだけではなく、相互のために忠告し合うことも友情には大切である。日々の生活をよりよく生きるために、理解と信頼に基づいた友情を育てていこうとする気持ちをもたせたい。

(2) 児童の実態について

4年松組の児童は、男女分け隔てなく仲が良い。運動場ではドッジボールや鬼ごっこ、教室内では花いちもんめなどの遊びを男女混合で行っている姿が見られる。グループ学習では、困っている友達がいると助言をしたり、互いに意見を言い合ったりすることも抵抗なく行うことができる。しかし、ちょっとした心のすれちがいが起こると、トラブルになることを避け、相手に対して自分の気持ちを伝えることに二の足を踏む児童が多い。

そこで、友達とは仲が良いだけではなく、相手の立場を思いやり、互いに向上していくことが必要であることを理解させ、日々の生活をよりよく過ごすことができるよう、理解と信頼に基づいた友情を育てていこうとする気持ちをもたせたい。

(3) 資料について

村人たちと仲良くしたいという赤鬼の気持ちを考え、村人の前で乱暴な行動をとり、自分が悪者になると赤鬼に提案する青鬼。青鬼の思いやりに気付かず、「もっとほかほかなぐるのさ」と言われ、私利・我欲のため安易に青鬼を悪者にしてしまった赤鬼。ここでは、子どもたちに「自分本位で青鬼を殴ってしまう赤鬼」の気持ちを引き出したい。そして、青鬼を退治することで、かねてからの願いであった人間と仲良くなることのできた赤鬼が青鬼の残した手紙を読んで涙する。このとき、赤鬼は、初めて青鬼の深い友情と自分のことだけしか考えていなかったことを心から後悔する。その赤鬼の気持ちについて考えさせ、「青鬼に謝りたい」「僕のことをそこまで考えてくれていたのか」など、子どもたちの様々な意見を引き出し、友情の本当の意味を話し合わせ、ねらいとする価値に迫っていきたい。さらに、友達が学校生活の中でかけがえのないものであることを理解し、友達を信頼し、互いに思いやる気持ちを高めていきたい。

3 本時の指導

(1) ねらい

友達と互いに理解し、信頼し、思いやる気持ちを育てる。

(2) 本時の評価規準

- ・ 資料から、真の友情とは、自分本位ではなく互いに理解、信頼し、助け合うことであるということに気付く。
- ・ 自分自身の経験を振り返り、友達を理解し、信頼し、互いに助け合おうという気持ちを高めるようにする。

(3) 価値にせまるための工夫

- ・ 話の流れが分かりやすいように場面絵を掲示する。
- ・ 動作化を取り入れ、主人公の気持ちを考えさせる。
- ・ キーワードを提示し、価値に迫ることのできるようにする。

(4) 準備・資料

- ・ 教 師：明るい心、場面絵、キーワード、ワークシート
- ・ 児 童：明るい心、筆記用具

(5) 過程

学習課題 主な発問 道徳的価値との関連

| 段階 時間 | 学 習 活 動 | ・留意点 <input checked="" type="checkbox"/> 支援 <input type="checkbox"/> 評価 |
|--|---|---|
| 気 づ く 5 分 | 1 友達がいて、よかったなという経験について発表する。 ・ 一緒に遊ぶと楽しい。 ・ 困っているときに助けてくれた。 ・ 係の仕事を手伝ってくれた。 | ・ 友だちがいてよかったな、と思った経験を想起させ、ねらいとする価値への方向づけをする。 ・ 「楽しいとき」「つらいとき」「さびしいとき」「こまったとき」など、場面を想定し、経験を想起させる。 |
| と ら え る 5 分 | 2 資料「ないた赤おに」の人物関係や場面展開の状況をとらえる。 (1) 「赤おに」の気持ちを考えながら、範読を聞く。 (2) 場面絵を見ながら、話の流れをつかむ。 | ・ 赤鬼の気持ちを想像しながら範読を聞くことをおさえる。 ・ 赤鬼の人物像をおさえる。 ・ 自分の思いが人間に伝わらないことが悔しくてたまらない赤鬼の気持ちに迫らせる。 ・ 青鬼の提案に安易にのった赤鬼の気持ちをおさえる。 |
| 深 め る 20 分 | 3 資料「ないた赤おに」を読んで話し合う。 (1) <u>青鬼を殴っているときの赤鬼の気持ちを考え、話し合う。</u> <div data-bbox="363 1070 1337 1171" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 「もっとぼかぼかとなぐるのさ」と言われた赤鬼は、どんなことを考えて青鬼を殴ったでしょう。 </div> ・ 殴らないと人間と仲良くなれない。 ・ 人間と仲良くなりたい。 ・ これで人間と仲良くできるかも。 ・ 青鬼にわるいなあ。 (2) <u>青鬼の残した手紙を読んで涙を流している赤鬼の気持ちを考え、話し合う。</u> <div data-bbox="375 1435 1337 1541" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 青鬼の残した手紙を読んで涙を流している赤鬼は、どんなことを考えていたでしょう。 </div> ・ 青鬼に悪いことをしてしまった。 ・ そこまで、考えていてくれたのか。 ・ ぼくは、なんということをしてしまったんだ。 ・ 自分のことしか考えていなかった。 ・ 青鬼、帰ってきてほしい。 ・ 青鬼に謝りたい。 ・ もう一度、青鬼と友達として仲良くしたい。 | <div data-bbox="863 1182 1422 1301" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <input checked="" type="checkbox"/> 役割演技を行い、自分の欲のために青鬼の深い友情に気付かない赤鬼の気持ちを引き出す。 </div> ・ 青鬼を殴ったことが、自分本位の行動であったことに気付かせる。 ・ 青鬼の深い思いやりに気付かなかった赤鬼の後悔の気持ちに気付かせる。 <div data-bbox="887 1787 1406 1973" style="border: 3px double black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> 資料から、友情とは自分のことばかり考えるのではなく、友達を理解し、信頼し、相手を思いやることであることに気付くことができたか。 </div> |

| | | |
|---------------------|--|--|
| <p>みつめる 10分</p> | <p>4 <u>自分を見つめる</u></p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">友だちのことを考えて何かしたこと（していること）はありますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 部活動に途中から参加する友だちが困らないように、活動の流れを教えた。友達が楽しそうに参加していたので、よかったなあと思った。 ・ 係活動が大変そうな友達の手伝いをしたら、感謝された。また、手伝おうと思った。 ・ マット運動で、回脚前転のこつを教えた。一緒に何度か練習すると、友達はできるようになった。感謝されて嬉しかったし、友達ができるようになって自分も嬉しかった。 ・ プリントを前から順に送っていくとき、机の上になんか置くのではなく、相手の顔を見て「どうぞ」と言って手渡しするようにしている。相手から「ありがとう」と返事があり、とても嬉しい。 | <p><input checked="" type="checkbox"/> なかなか振り返ることができない場合は、具体的に考えられるように授業中、休み時間、放課後などの場面を想起させ、考えることができるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 経験だけでなく、そのときの気持ちについても振り返らせる。 ・ 友だちの発表を聞くことにより、価値を自覚し、さらに自分を見つめさせる。 <div style="border: 3px double black; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>自分自身の経験を振り返り、友だちを理解し、信頼し、互いに助け合おうという気持ちを高めている。</p> </div> |
| <p>あたためる 5分</p> | <p>5 教師の話聞く。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・ 友情を育ててきた教師の体験を紹介し、子どもたちの心に余韻を残す。 |

4 反 省

5 高 評